ドキドキわくわく　あたらしい本

2026.10

えほん

せかいをみてきたペンギンくん

M.&H.A.レイ　作　木坂涼 訳
好学社

ペンギンランドのラジオきょくではたらくペンギンくんは、とてもこまっていました。ラジオではなす「おはなし」がなくなってしまったからです。そこで、やすみをとって『おはなし』をみつけるたびにでることにしました。ともだちのアザラシとシロクマがくれた、かわとロープでふねをつくると、それにのってしゅっぱつ！ペンギンくんのせかいをまわるたびがはじまります。

オスカルのごちそう

ラーシュエリク・エリクスソン　作　高橋理子　訳
こぐま社

オスカルは、たべるのがにがて。りんごや、アイス、ケーキに、ようなし。みんながだいすきなものでも、ちっともたべようとしません。ところがあるひ、ママとかいものにいったオスカルは、おなかがすいてきました。そこでたべはじめたのは、なんと、レンガでできた、たてもののかべ！それからも、オスカルはまいにち、へんてこなものをたべつづけました。

低学年

ありがとうをはんぶんこ

工藤純子　作　まつながもえ　絵
岩崎書店

ぼくは、いつもとなりのせきのあおくんを、たすけてあげている。けしゴムをおとしたときも、つくえがひっくりかえったときも、あおくんは「たすけて」ばっかり。

あるひ、学校のかえりみちで、ぼくはーえんだまをひろった。こうばんにとどけなくちゃ、とおもうけど、ゆうきがでない。とおりかかったあおくんについてきてほしいけど、「たすけて」っていうのがこんなにむずかしいなんて。

ねこのニャンジャは１年生

村上しいこ　作　北村裕花　絵
あすなろ書房

ねこのニャンジャは、おかの上の「じんじゃ」で生まれました。ニャンジャはいつも、「おかのまんなか小学校」の子どもたちを見て、「いいにゃぁ」とおもっておりました。そしてある日、ついに、「よし、いってみるにゃ」とけっしんします。

一年生のクラスに入ったニャンジャは、わくわくして学校にいきました。さて、どんな一日になるでしょうか。

ドキドキわくわく　新しい本　2026.10

中学年

棚のタナカちゃん

戸森しるこ　作　死後くん　絵
講談社

自分の部屋に置く棚をさがしていたわたしは、古道具屋で木製の棚を見つけた。「これは、いい棚だなぁ」値札をさがしていたら、「買ってくださるんです？」棚から声がした。人間の言葉をしゃべる棚・タナカちゃんとの出会いだった。棚には、写真立て、手さげ、ぶたの置き物、帽子がのっている。タナカちゃんは「のっているものは友人だから、セットで買っていただきます」という。棚はほしいけれど、すべて持ち帰るのは気乗りがしない。でも、わたしは、この友人たちの身の上話を聞くことにした。

友だち禁止の放課後クラブ

麦野圭　作　かわじろう　絵
金の星社

転校したばかりのぼくは、「ハッピークラブ」という放課後クラブに行くことになった。ハッピークラブはなんだかうす気味悪い。ピンク色の建物に、うす暗い室内に大音量で流れる明るくてテンポのいい音楽と、おかしなスタッフたち。それから、「友だちをぜったいに連れてこないこと」というルール。部屋のすみでいつも本を読んでいる男の子とも、友だちになれそうにない。でも、転校先のクラスの子の前ではしゃべれなかったぼくだけど、ハッピークラブのみんなには、ママにも話せそうにないことが言えたんだ。

高学年以上

おれのなまえはイッパイアッテナ

斉藤洋　作　杉浦範茂　絵
講談社

おれの最初の記憶は、雨がふっている公園だ。ノラの子ねこだったおれは、人間の食べ物を「ぬすむ」か「もらう」しかなかった。いつも食べ物が手に入るわけじゃない。ほかのねこのなわばりに入ってしまい、見つかって追いまわされることだって何度もあった。海のそばにある町で年とったねこ・シロに出会ったおれは、「コトラ」という名まえをつけられ、けんかのやり方を教わった。「コトラ」、「トラ」、「タイガー」、そして「イッパイアッテナ」。いろいろな名まえでよばれるようになった1ぴきのねこが語る、ねこと人間の世界を描いた物語です。

バードボーイ

キャサリン・ブルートン　作
尾崎愛子　訳　danny　絵
偕成社

母とくらした都会から、山岳救助隊として働くおじのところへやってきたウィル。アフガニスタンからきた少年オマールに教えられながら、山登りや自然調査を楽しむ日々をすごしていた。

ある日、こっそり登った岩の岬に鳥の巣を見つけた。それは、絶滅危惧種のミサゴという鳥で、このあたりにはいないはずだった。大雨の夜、ひなが巣から落ちて弱っていた。ぜったいに助けてあげたくて、ウィルはひなを家につれてかえることにしたが、本当は絶滅危惧種にはけっしてさわってはいけないのだった。